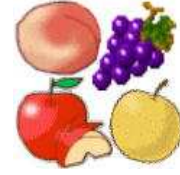




平成23年度 果樹情報 第12号

(平成23年9月20日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (9月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が25.5℃で平年より1.6℃高く、2半旬が23.4℃で平年より0.8℃高く、3半旬が24.9℃で平年より3.5℃高く経過しました。この期間の降水量は14.5mmで平年の19%でした。

2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

9月14日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmがpF2.9で乾燥傾向、深さ40cmがpF2.3、深さ60cmがpF2.3でそれぞれ適湿となっています。

3 生育概況 (9月15日現在：果樹研究所)

表 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所9月15日調査)

果実肥大	ナシ		リンゴ	
	豊水		ふじ	
	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	82.4	95.0	77.0	86.8
平年比(%)	105	106	101	105

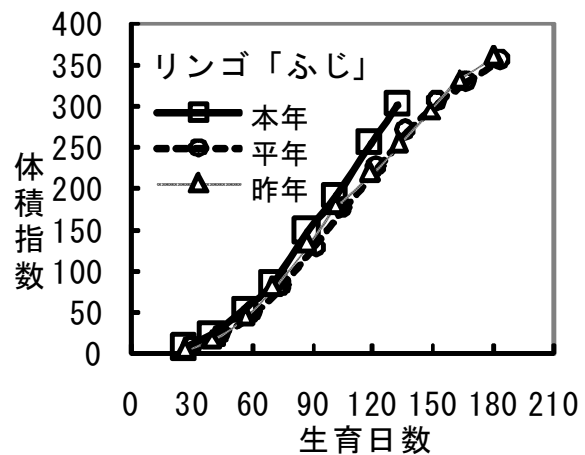
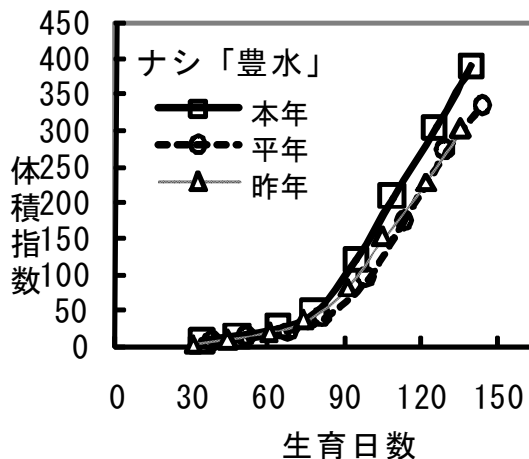


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所9月15日調査)

(1) モモ

「川中島白桃」の収穫始めは8月26日で平年より1日遅く、収穫盛りは8月31日で平年より3日遅れました。果実品質は、一果重が381g(平年314g)、糖度(Brix)が11.1%(平年12.9%)でした。

「ゆうぞら」の収穫始めは9月1日で平年並み、収穫盛りは9月8日で平年より3日遅れました。果実品質は、一果重が319g(平年314g)、糖度(Brix)が12.2%(平年12.7%)でした。

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が平年比105%、横径が平年比106%と平年より大きい状況です。果実の生育日数による比較でも、平年より大きい状況です。

9月15日現在の「豊水」の果実の成熟状況(満開後140日)は、果肉硬度は平年より低く、果皮中のクロロフィル含量は平年より高い状況でした。また、糖度は平年並みで、リンゴ酸

含量は平年より低い状況でした。

(3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が平年比101%、横径が平年比105%で平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較でも、平年よりやや大きい状況です。

9月15日現在（満開後133日）の果樹研究所における「ふじ」／マルバカイドウ（46年生）の内部裂果発生率は26%（昨年18%）、外部裂果発生率は2%（昨年2%）でした。

4 栽培管理上の留意点

(1) モモ

ア 秋肥の施用

9月のできるだけ早い時期に秋肥を実施し、樹勢の回復につとめましょう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で7kg/10a程度（あかつきの場合）施用します。

イ 秋季せん定

若木などで樹勢が強く、徒長枝の発生が多い樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）に秋季せん定を実施しましょう。なお、樹勢が弱い樹では、葉数確保を優先し、秋季せん定は実施しないか、実施しても最小限とします。

(2) ナシ

ア 収穫

「豊水」は、硬度の低下が平年より早い傾向にあるので、収穫が遅れないよう注意しましょう。

(3) リンゴ

ア 中生品種の収穫前管理と収穫

各品種の生育状況に合わせ、摘葉や玉回し等、着色管理が遅れないように注意しましょう。収穫は、地色や着色、食味などから総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 「ふじ」の着色管理

「ふじ」の摘葉は10月中旬頃から実施しますが、栽培面積が多い場合は9月下旬頃から実施しましょう。この場合、1回目は軽く実施し（3～4枚）、10月中～下旬に再度強めに実施します。

(4) ブドウ

ア 収穫

収穫が遅れると果実品質が低下するので、適期収穫を心がけましょう。

イ 秋肥

貯蔵養分の蓄積を図ること等を目的に9月中（収穫後）を目安に秋肥を実施しましょう。施肥は尿素を中心に速効性肥料を用い、窒素成分で2kg/10a程度を目安に施用します。ただし、樹勢が強く、遅伸びしているような新梢が多い樹には、秋肥は実施しないようにします。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴの各種病害

9月中旬以降、降雨等により湿度が高い状態が続くと、褐斑病、すす点病、すす斑病の防除が必要となります。また、中生種の「陽光」や「ジョナゴールド」などで果実腐敗が認められる場合は炭そ病の可能性が高く、二次感染により発生が拡大するおそれがあるため、罹病果は見つけ次第速やかに除去しましょう。

イ モモせん孔細菌病

越冬伝染源密度の低下を図るために、収穫終了後に秋季防除を2回実施しましょう。新梢葉や果実での発生が多かったほ場では、落葉前までにさらに1回防除して（計3回防除）感

染防止を図りましょう。

ウ ナシ黒星病

本病の発生が多かった園では、園内の越冬菌密度の低下を図るため、「豊水」の収穫後（9月下旬～10月下旬）に秋期防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第6世代の防除適期は9月5半旬頃になると推定されるので、密度が高いモモ園では、越冬密度低下のため防除を徹底しましょう。

イ コスカシバ

本種による被害が多いモモ園では、9月中旬～下旬頃（収穫後）に防除を実施しましょう。

ウ クワコナカイガラムシ

発生の多い園では9月下旬頃までにバンド誘殺用の資材を設置しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。